

## 中神琴溪 医案④

京師柳馬場四条下る町 某が家にて、越前  
敦賀の飛脚、中暑吐瀉して後、形 木偶人の  
如くなりて、聊かも動揺すれば痛み忍ぶべか  
らず。竟に昏倒して予を請う。予詣る時、衆  
医既に辞し去れり。是れを診するに、脉尚お  
絶せず。予曰く、既に吐瀉しぬる上は暑邪は  
已に去にたるなるべし。只だ転筋腹部に入て  
社、かかる痛みはなすらめとて、二人の漢子  
に命じて足を取りて引き上げしめ、頭を下に  
し床机の上にあがりて是を振らしむ。頃刻に  
して横に臥さしめたるに、忽然として蘇生し  
て常人となり、即座に予と言を接して物語し  
ぬ。是等は薬を服せずして平愈したり。